

2015 年度 USACH との茶話会

JX 日鉱日石金属
津田 貴

2015 年 10 月 23 日（金）、カマラ渉外委員会の行事の一環としてサンチャゴ大学(USACH)日本語翻訳学科学生とカマラ若手会員の茶話会が行われ、今回司会として参加させていただきました。

本会の主な目的は、日本語を学ぶ学生の皆さんに日本人と直に交流ができる機会を設けることで、日本語をはじめ日本に対する興味を持ち続けてもらうために行われている行事です。本会は6年前から始められましたが、今や毎年恒例の行事となっており、日本・チリの言語や文化についての各種ゲームやその後の懇談等で交流しています。例年多いに盛り上がり、学生にとってもカマラ若手会員にとっても互いの文化への理解を深めることができる良い機会となっています。

今年の参加者は学生の皆さんが 16 名、駐在員の皆さん 16 名の 32 名が参加しました。はじめに乾杯をし、あらかじめグループ分けされたメンバー同士での自己紹介・フリートークを行いました。初めて参加した私としては話すスピードや単語の選択をどれくらい合わせればよいか心配していましたが、その心配はすぐなくなりました。学生の皆さんの日本語レベルの高さからか、開始早々互いに打ち解けて盛り上がり、次のゲームに進めることをためらってしまうほどでした。



その後グループ対抗のゲームを2つ行いました。1つ目は「お題当てゲーム」で、フリップに書かれた日本語の単語を学生が日本語でヒントを出し、そのヒントを基にカマラ会員がその単語を当てる、というゲームです。各グループが制限時間の中で慌てながらもなんとかヒントが伝わるように、出されたヒントの意図をつかめるようにコミュニケーションを取ろうとしていました。2つ目は学生の皆さんが用意したゲームで、フリップの写真や絵を見てチリ独自の単語

Chilenismo を日本人が当てるといふものです。どちらゲームでも知ってはいるもののいざ聞かれた

ときにパッと答えが出ないことがあり、悔しがったり「ああなるほど」といった声が出るシーンが多く見られ、白熱したゲームとなりました。

ゲーム終了後はフリートークの時間でした。すでに最初の自己紹介の時点で互いに打ち解けていたため、茶話会というよりは宴会のような盛り上がりを見せていました。話の内容は日本のサブカルチャーから伝統文化、日本に興味を持ったきっかけや将来日本へ行く予定、今後の Carrete の企画等様々な内容で懇親を深めていました。

約2時間程の会はあっという間に過ぎて終了しましたが、終了後も残って連絡先の交換やその後の2次会の話等をしており、本会をきっかけに新しい出会いや繋がりができたと思うとうれしくなりました。USACHの学生の日本語のレベルの高さに驚きましたが、会話をする皆さんを見てると直に日本人と話ができるという状況をととても楽しんでいる印象をうけ、本会の意義を再確認しました。日本人としても、チリ人の学生と交流できる機会はありません。学生の皆さんが日本に対してどのような考えや興味を持っているのかを知ることで、自国に対する新しい見方や発見があり、良い刺激になるものだと思います。この会だけで終わりにせず、今回知り合った方々とはまた機会を作って交流し、そこからさらに交流の輪を広げていけたらと思います。





以上

※この記事は会報 240 号（2015 年 11 月発刊）に掲載されました。